

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500016		
法人名	有限会社 白ゆり		
事業所名	グループホーム白ゆり		
所在地	大分県佐伯市大字木立字大野4885番地		
自己評価作成日	平成25年7月6日	評価結果市町村受理日	平成25年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&jigvossyoCd=4490500016-00&PrefCd=44&Version
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 ! F
訪問調査日	平成25年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・貼り絵作成や団子作りなど楽しくレクリエーション活動をしています。また、移動図書館利用など個人の趣味活動の手伝いも行っています。
- ・利用者さんは、遠慮なく自分の希望、意見を発言出来ています。
- ・季節感あふれるおいしい手料理を提供しています。
- ・利用者と職員の関わり、関係が理念のように明るく元気に楽しく出来ています。
- ・職員の離職が少ないので、顔なじみで不安にさせることなく、継続した援助が出来ています。
- ・施設周囲の環境が、四季おりおりの変化(花・鳥など)に恵まれています。
- ・協力医療機関との連携による終末期の看取りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四季折々の変化が体感できる自然環境の中に施設を新築され、ゆったりとした家庭的な雰囲気、一人ひとりを尊重する支援がなされ、利用者同士、明るく和気あいあいで、楽しく暮らせる配慮がなされています。外出も近くに公園があり、利用者の意向・希望に沿って出掛けられています。運営推進会議や行政、そして医療機関とも緊密に情報交換等がなされ、利用者・家族が安心出来る対応に取組まれています。また支援に関わる職員、管理者が一体となって利用者の立場になって、いろんなことに取組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議や朝の申し送り時に、地域に密着した理念を事業所の目標として自覚しながら共有して、利用者さんと共に楽しく仕事をしています。	理念に対する考えを利用者・家族そして事業者・管理者・職員と共有しながら、利用者にとって今までの生活を継続し、和気あいあいの中、それぞれの個別支援に取組まれています。	自然環境につつまれた、真新しい施設に変わり、新たな思いで支援に取組まれる中、理念に対する受け止め方、見直し等期待します
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年12月に移転し、まだ地域の一員としての交流の実績は少ないが、運営推進会議を通じて民生委員や区長からのアドバイスをいただきながら盆踊りへの参加、学校訪問（生徒受け入れ）避難訓練等の交流が出来るように努めています。また、避難受け入れ先として区長さんからの依頼を受けています。	移転して日が浅いのですが、地域の行事・活動への参加、地区の代表者・ボランティアの方々と積極的に交流を展開し、地域の一員となるように取組まれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・区長、民生委員の方には運営推進会議で、地域の方には普段から認知症についての情報発信を行い、理解を得られるように心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者や職員の意向に添った議題や包括からの議題を検討し、その報告を行っており双方向を心がけ、工夫しています。行事や利用状況の報告、苑に対する意見、行事参加での感想を伺い、サービス向上に活かしている。	運営推進会議のメンバー6名で2ヶ月に一度、施設の課題・利用者の状況など双方向に意見交換され、また自己評価・外部評価・改善点などについても報告・意見を交わされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課職員や福祉課職員と密に連絡相談を面談や電話で行い、利用者さんの支援に協力してもらっています。（先日も顔そりについて相談した）	地域包括支援センター、介護保険係などを中心に利用者の暮らしぶり、課題等の報告、その支援方法や制度の改正・変更時においては、指導・提言など意見交換が積極的になされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を中止。ガイドラインに添った拘束禁止のマニュアルを元に、勉強会や申し送り時に職員間で確認、意見交換をし、身体拘束のないケア実践に取り組んでいる。薬で抑えるのではなく、関わりを密にし服薬は医師との連携で最小限に努めている。医師との連携で最小限に努めている。	身体拘束に関する勉強会を管理者・職員と定期的に開催し、利用者の行動抑制にならない支援や、事務所が新築の為、出ていく気配を早く感じ取る事が出来、その対応が適切に取り組まれています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・勉強会を行い、普段から利用者さん同士の日常会話や動作を注意深く観察し、口論程度でも間に入り、未然に防いでいる。また些細なことでも家族に報告している。職員のストレスも把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・施設長が勉強会に参加、その後職員に伝達・説明した。成年後見制度や権利擁護制度の勉強会を8月に行い、必要な時に適切に活用出来るように理解を深めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族や本人の不安や疑問が解決出来るように、十分に説明をし同意を得て契約書を交わしています。変更の際は、説明の書類を作成し面談にて説明、家族会にて説明をして承認をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が、遠慮なく意見要望を発言出来る関係づくりをしている。意見箱、第三者機関、運営推進会議、家族会の活用。面会の時に家族からの言葉を真摯に受け止め、施設長・管理者・主任で会議し職員、外部に発信、統一した介護運営に反映している。	苦情・意見があれば、面倒がらずに積極的に取り組む体制づくりや、苦情・意見等は施設だけでなく、介護保険係・運営推進会議等に申せることを利用者・家族等に伝えている事が伺えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議、朝礼など職員からの意見が気軽に言える雰囲気づくりをしており、チームワークを大切にしたい運営に反映しており、また運営推進会議にフィードバックしている。	職員会議などで、利用者の状態・課題を気軽に発言して頂き、その状況に応じたアイデア・支援方法を全員で共有する機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与の受給、食事会の開催などを行い、また業務に対し認め、誉めるように努めている。給与をもう少しUPして欲しいとの職員の要望があり、検討してやりがいを持って働けるように努めます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の一環として研修への参加を確保しており、研修などの案内を掲示している。研修報告を職員全員で把握、質の向上に努めている。勉強会も行っている。今後は、全職員が幅広く参加するように努めます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列の有料職員との懇親会や日常からの行き来、研修会への参加を通じて他施設との交流する機会を作っている。また、長寿支援ネット懇話会に参加して情報を得、サービスの質向上に取り組んでいる。現在、GH連絡会開催なし。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込みがあった際は、本人、家族と面談し、ADL状態や価値観、入所に対する気持ち、不安など確認しており、可能であれば事前に見学していただけるよう努めています。また、体験入居利用もあります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至る家族の想いを受け入れると共に、困っていることや不安なこと、要望、疑問などに耳を傾けている。金銭面を含めた利用料の相談も行っている。繰り返し相談援助を行い、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に当たり、事前アセスメントを行い、心身状態や生活歴、家族状況などを把握し、まず必要としている支援を行っている。また個別対応を心がけており、他者との交流が苦手な方には無理いせず、敢えて居室で過ごしてもらうこともある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜の皮むきや洗濯物たたみなど、共に同じ作業をしたり、自分で出来ることは自分で行うなど役割を持ってもらっている。職員から先輩として教えを請い相談することもある。日々の暮らしを共にする関係を築くように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設の行事等に出来るだけ参加をお願いし、家族と共にドライブ・食事をする機会を設け、面会も含め、意見をもらったり日々の出来事や様子の報告を行い、本人の情報を共有して共に本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	正月などの帰省や入居以前からの友人に施設の行事への招待をしたり、面会もお願いしており、変わらずにお付き合いが出来ている。また、利用者の希望に添って馴染みの美容院やお店利用を支援しています。	利用者が今までの生活の延長を大切にし、知人・友人等馴染みの方へ電話や手紙での連絡が出来る支援、また、馴染みの職員が継続的に支える体制づくりに取組まれています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新入居者さんの紹介や間を取り持つなど、他入居者に溶け込みやすい支援や利用者の性格や想い、尊厳を把握・大切にして楽しく過ごせるよう支援している。ホール座席や居室配置は、相性など考慮し場に入り易い雰囲気づくりと声かけをしている。互いの居室訪問が盛んです。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所した方の自宅を訪問し様子を見たり、入院ではお見舞いに行き状況を把握している。退所した方の家族が、玄関先の花の手入れをしてくれたり、野菜の差入れを頂くなどの関係を維持している。亡くなった方のお通夜や葬式に参列して残されたご家族の心の支えになれるように努めています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人と触れ合う中で、気付きや想いを見逃さず、一人ひとりの希望や意向の把握に努め、全職員で情報の共有と検討を行い、その人にとり最良の暮らしは何か、常に意識を持って関わっている。	全職員で情報共有しながら、利用者自身が言葉に出しにくい事をしぐさや表情など、日頃の支援の中で感じ、本人の思いを察し、意向に沿うような支援に取り組まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時に本人や家族、担当CMIに聴いたり、入居後も家族や知人の面会時に話を聴き把握に努めている。可能な範囲で本人からも聴いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の暮らしの現状は日々変化していくことを自覚したうえで、毎朝の健康チェックや本人との関わりのなかで、出来ること出来ないこと心身状態、生活リズムの把握に努めている。また変化には柔軟に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常日頃から職員、家族、本人からの意見を取り入れてチームで介護計画を作成している。毎月のモニタリングで見直しをしている。カンファレンスでの職員の意見も反映して、全職員が統一した援助が出来ている。	本人・家族の意向を大切にしながら、全職員で介護計画が作成され、また定期的或いは状態の変化に伴い介護計画の見直し等がなされ、本人本位の計画に取り組まれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護計画の援助内容に添って援助を行い、様子や気付いたことを記入している。介護記録、連絡ノート、ヒヤリハット等で職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今、その人に必要な病院受診、往診、訪問診療の援助や買い物、金融機関、美容室への外出援助など個々の本人、家族のニーズに柔軟に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	10月の感謝祭では区長などの来賓と近隣の方大勢を招待して利用者と共に楽しい時間を過ごした。また地域に花見に行ったりして地域で共に支え合いながら暮らすことが出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、本人の希望を大切に、入所前のかかりつけ医受診が継続出来るよう受診援助を行い、また協力医への変更を希望する際は本人、家族と職員で事前受診や打ち合わせを行い適切な医療を受けられるよう支援している。	本人、家族の意向をしっかりと取り入れ、月2回主治医による健康管理が出来ています。また、受診結果については電話連絡にて家族に報告できています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の関わりの中で気付いた情報を看護職員に報告、相談をし(看護師配置)適切な受診や看護を受けられるように支援している。看護記録は別にあり、周知徹底を図っている。連携(介護職⇔看護師⇔医師)は密に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には添書と申し送りを行い、また面会に行くなどして病院、家族と連携をとり、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には支援方法や終末期に対するアンケートや話し合いを行っており、重度化した際は主治医を含め家族と話し合いをして、事業所として出来ること、出来ないことを説明し、協力医も含めチームで支援に取り組んでいる。	協力医を含めたチームケアがしっかり出来ており、重度化した場合や終末期のあり方について事業所の方針を説明し、希望される場合は同意書を得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議や勉強会を通じてマニュアルに添った適切な対応や連絡網活用がより徹底して出来るように繰り返し訓練していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水などの非常品の備蓄を行った。5月の避難訓練は夜間を設定し通報も含め行った。また事前に地区の分団長へ相談をし、地域の方への参加依頼をした。災害時のマニュアルを作成、活用している。	日常訓練のみではなく通報も含め夜間訓練が実施されています。1週間分くらいの非常品の備蓄も出来ています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のマニュアルや日頃の処遇を踏まえて、勉強会を行い、利用者一人ひとりに対する声かけや対応が、誇りやプライバシーを損ねないで、人格を尊重した関わりに十分気を付けて対応しています。	2ヶ月に一度、職員全員が参加する研修を行い、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを守ることを常に気をつけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、一人ひとりの想いを尊重、自由に発言、自己決定出来る雰囲気、関係づくりが出来ているのが特徴です。理にかなわない本人の想いに対しても、否定することなく、まずは受け止めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	友人との外食支援や居室での趣味活動など、利用者のその日の体調や気分など本人と話し合い、想いを把握、尊重し居室で過ごしたい方に対して、あえて無理に外に出そうとせず、その人が望む生活を支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容用品など本人の身だしなみやおしゃれの希望に添った買い物援助をしたり、馴染みの美容室利用の外出援助している。訪問理容師によるカットもある。ペンダントなどの装飾品も遠慮なく身につけていただき、折につけ誉めたりしている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と相談し、出来る範囲での団子作りに取り組んでいる。利用者が皮むきした食材をすぐ調理している。同スペースにホールがあり、料理の香りなど五感に食事の楽しみを感じることが出来る。食べたい物を聞いて献立している。朝の挨拶や下膳を個の能力に応じてもらっている	利用者、職員間の間にとっても会話が早く利用者自身が出来る範囲でエビの皮むきや団子作りに取り組んでいます。五感を活用し今日の食事は何だろうと食事を楽しむことが出来ます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養士のアドバイスにより献立表作成。食事摂取表をもとに、個人のその日の体調に応じて食事形態・盛り付け量・栄養補助食品の導入、食事介助、水筒の使用(飲量確認)など柔軟に対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・ポリデント洗浄を毎日行っている。訪問歯科診療により指導をいただき歯科衛生士を始めとしてチームで義歯の手入れや歯磨きの口腔ケアに取り組んでいる。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況を把握し、可能な範囲でオムツの使用が減るように排泄パターンやトイレサインを把握し、トイレ誘導、声かけをしている。歩行レベルを考慮して居室の配置を行い、安全に失敗が減るように工夫している。	さりげなく声かけをしたり、仕草や目線、その人の合図を把握しトイレへの誘導をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の健康チェックで排便有無の確認を行い、看護師・栄養士・介護士で水分補給、体操、運動、マッサージ、繊維質の多い献立づくりなどチームで取り組んでいる。また必要に応じて緩下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全を考慮し、職員二人体制で支援している。基本的に週3回(月・水・金)行うが、利用者の体調や希望に合わせて日時を変更したり、友人とおして入浴、湯のれんでの雰囲気作り、入浴剤を使用して楽しんでもらっている。	一人ひとりの入浴の習慣を理解し、個別の入浴支援をしています。また、利用者の感想や希望を聞き職員間で共有できています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく眠れるよう、静かな環境を確保、また家庭のように目に付く所に布団を干し清潔な寝具を使用したり、空調を調整し、快適な心地よい休息を確保している。日中は可能な限り離床座位確保に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬を毎回確認、飲み忘れや誤薬がないよう努めている。職員は勉強会や薬状を見て理解に努めており、新規や変更の際には看護師が連絡ノートに記入、個別に指導して収支徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や力を活かし、カラオケや洗濯物たたみなど職員と共にやっている。外出や買い物、居室でコーヒーを飲む、読書やCDなど趣味活動などの気分転換の支援をしている。トイレや居室の掃除をする方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や希望に添ってドライブ、買い物などの支援をしている。年に2～3回地域の方の協力のもと、利用者・家族・職員で外出している。友人との外食や落語や図書館利用の手伝いもしている。普段から施設周辺を散歩したりしている。	四季に合わせた外出のプランや個別外出の機会を持っており、希望に添った支援への対応がなされています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布(小額)を持っている方や事業所預かりの利用者も、外出時など自分の意思で買い物をし、自分で支払うよう支援している。また金銭管理が出来なくても本人の希望で、ごく小額の所持を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時や必要に応じて家族と相談したうえで、本人の希望により事業所内の電話をかけたり、取り次いでいる。携帯を所持している方もいる。はがきの購入援助など行い、手紙を出すこともしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや浴室など適切な空調を努めている。ホールは明るく広々で、利用者と共に作成した貼り絵を掲示するなど居心地良く過ごせている。七夕や正月飾りなど季節感ある飾り物や四季おりおりの花を生け、窓からも四季の変化を感じとれる。まめに掃除をして清潔快適な空間づくりをしている。	共用空間にはソファを設置し、利用者と一緒に作成した作品を掲示しており、会話の弾む居心地の良い空間作りとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホールから少し離れた所にソファがあり、独りで外の景色を見ながらゆったりと過ごしたり気の合う仲間と楽しく過ごせる場所になっている。事務室にも気軽に来て自分の想いを表出し過ごす方も多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室は明るく、静かで本人が慣れ親しんだ家具や仏壇などご家族と相談しながら使っている。ぬいぐるみやタオルなど本人の嗜好により居心地良く飾っている。また、光に弱い方に採光を配慮して居室配置している。	ベンチを置いて友人と過ごしたり、家族の写真やぬいぐるみ、使い慣れたタオルを持ち込み、家族とのつながりやこれまでの生活習慣を大切に、一人ひとりが安心して過ごせる環境づくりをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・安全を考慮し、本人に合ったベッドの配置と高さの調整、能力による座席の検討など柔軟に対応し工夫している。		